

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	独自の理念「六つの誓い」がある。		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	入社時の研修で周知され、毎朝、申し送り時に唱和。会議の中でも理念実現にむけて討議し、取り組む努力をしている。		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	ご家族には入居時に理念について説明している。又、玄関及びユニット内には理念を張りだし、来訪者がいつでも見る事が出来るようにしている。地域運営推進会議でも理念説明は行っている。	○	イベント等の声かけ、季刊誌の回覧のほか、日ごろの挨拶を継続する。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	さくら祭りや各行事、防災訓練などのイベント等開催時に、同じ班の方々にお声かけし、参加していただいている。	○	参加はもちろん、ボランティア(手伝い)をしていただけるよう働きかける。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の福祉委員を務めており、定期的に行われる会合に参加している。町内会のイベントにも、可能な限り、入居者様をお連れしている。	○	町内会行事に、今以上積極的に参加するようにする。
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	社会福祉協議会発行の情報誌にボランティア募集の掲載を行い、週一回程度、アクティビティに関わるボランティアに来て頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>今まで自己評価を行ったその評価に基づいて、自分たちの事業所がどういう状況であるか、何が問題なのかを皆で把握し、その改善に向け取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>定期的に運営推進会議を開催しており、会議で出た意見等をサービス向上のために活かせるよう取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括支援センターの職員とは、地域運営推進会議を通じて質の向上に取り組んでいる。又、市で開催しているケア会議にも出席している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>実際に成年後見制度を活用している入居者様はいるが、内容を理解している職員は少ない。</p>	○	資料配布や勉強会の開催、及び各自が自主学習していく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>事業所内において虐待はなく、日々ケアの中で個人個人、虐待に関して意識は持っている。</p>	○	資料配布や勉強会の開催、及び各自が自主学習していく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>ご本人、ご家族の意思を尊重しながら話をお聴きし、十分な説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に公的窓口の紹介を行っている。事業所内においても苦情が出た場合は速やかに対応し、改善につなげている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が来訪される際に、ケース記録を見ていただいたり、口頭にて近況報告をしている。来訪が少ないご家族に対しても、毎月在所確認表を送付する際、手紙を同封している。預かり金に関しては台帳をお見せし、確認印をいただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に公的窓口の紹介を行っている。事業所内に苦情処理担当を設け、迅速に対応させていただき、サービス改善につなげている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、役職者による個別面談の実施。職員の意見を業務推進会議で取り上げ検討の上、反映している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	現状の勤務構成において、入居者様の状態に応じた職員配置を工夫して行っている。突発で起きたときでも支障がないよう、シフト変更している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむを得ず退職や異動がある場合、入居者様に伝えることでその後の生活に影響を及ぼす場合があるので、場面ごとに対応を変えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	採用時に新人職員研修を行っており、実際に現場に入る際はOJT(職場内研修)を的確に助言できる職員にて指導している。外部研修は皆に知らせ、希望する職員については勤務を調整し、参加してもらっている。	○	組織的な研修体制を確立する。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	勉強会へは、職員から希望がある場合や、事業所指示にて参加している。同業者との交流はほとんどない。	○	サービスの質の向上のため、同業者との交流が持てるよう検討する。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	親睦会実施。休憩時間を一時間確保している。前述の定期的な個別面談や、業務推進会議でも取り上げ、ストレス軽減に努めている。	○	働きやすい職場に向け、労務環境の整備に今後も取り組んでいく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	管理者、役職者は職員の状態把握に努め、面談を行い問題の抽出・解決に取り組んでいる。又、日々の勤務の中でも常に声をかけ、向上心を持てるようにしている。	○	取り組み継続する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居前にご家族の協力も得ながら情報収集し、介護計画に基づいて、信頼関係の構築が出来るよう本人のペースに合わせて対応している。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族の思い、不安、疑問を丁寧に聞いた上で、受け止め、関係構築に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望などで相談を受けた時、ご本人の状況、ご家族が困っていることなど、何を必要としているのか伺い、介護計画を立案し、ニーズに即した対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の情報に基づいての介護計画を作り、実践しているが、入居してからのご本人の訴え等現状を踏まえ、ご本人に沿ったサービスが提供できるよう実践している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の中で習慣化された経験を活かせるよう働きかけている(料理を共に作る、作り方を教えていただく等)		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時にはケース記録を見てくださいたり、口頭にて状態の説明を行う中で、支援につき相談・協力依頼を行っている。来訪の頻度が少ない場合は電話連絡をしているが密ではない。	○	来訪頻度の低いご家族へはケース記録を郵送し、電話連絡を密にする。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来訪した際は、ご本人と過ごしやすいよう配慮している(飲み物を持っていくなど以外の訪室を避ける)。事業所内で行事を行うときは、案内状を送付し、可能であれば参加していただき、入居者様との時間を過ごしていただいている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの生活継続に向けて情報収集を行い、外出、交流の場の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるように努めている。	自ら他入居者様の食器の配膳、下膳を行ったり、歩行の見守りが必要である入居者様が立ち上がると知らせてくれる入居者様がいる。食後のひとときの場面には、必要に応じて関係調整を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居(契約終了)後も、いつでも遊びに来て頂きたい旨お話し、年賀状・暑中見舞いを出し、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	更衣、入浴、買い物など自己選択を尊重し、迷いがあるときは職員がアドバイスしながら日常的に行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前情報として入居者様やご家族から生活歴などをお聞きするほか、入居してからも入居者様から昔のことを聞かせていただき、それを生活の中に取り入れてその方らしい生活の実現に向け、努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタル測定、毎月の体重測定を実施しており、常に表情・言動に注意し状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人とのコミュニケーション、パートナー間での情報交換を日常的に行い、モニタリング、会議で課題を検討している。ご家族の来訪時や電話の際、意向を聞き、介護計画に反映させ作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居が決まったら入居日から1ヶ月と3ヶ月、6ヶ月毎の見直しを行っている。又、介護度の変更や身体状況の変化に応じて、期間に限らず見直しを行っている。会議及び毎朝の申し送りの際に、現存のニーズを継続すべきか、新たなニーズが必要か検討している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は、介護計画に沿った内容か、別の出来事かが明確にわかるようにしている。新たな発見や状況の変化があった場合は新たなニーズとして介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームにて多機能性はないが、医療との連携で健康管理、リハビリを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防等の公安部分については、都度報告、連絡しあい、協力・安全関係について支援を協力している。市民出前講座を利用したり、行事の際ボランティアをお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス活用支援は出来ていない。	○	他のサービス利用も視野に入れ検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	個別に包括支援センターと協働はしていない。	○	今後、必要に応じて協働していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医があり、状態に応じて相談している。看護師にて日常の健康管理、24時間の緊急対応を行い、医療連携体制が整っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	現在探している。	○	確保でき次第認知症に関する相談を積極的に行える体制を整えていく。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の資格を持つ職員が配置されており、実際に気になることがあればすぐ相談しているほか、入居者の薬の確認を行っている。又、本部所属の看護師が定期的に来訪し、健康管理他医師との連携を深めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関やご家族と密に連絡を取り、入居者様の状況の把握に努めている。話し合いの中で得た情報を基に、退院した際の支援方法をパートナー間で話し合う取り組みを行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご本人の状況を、変化のあるごとにご家族に伝え、ご家族を交え医師と後の方向性について話し合い、対応することで共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族の要望を聞いたうえで、「出来ること、出来ないこと」を明確にし、相談しながらチームとしての支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族、関係機関より情報を得てダメージ防止に努めている。退居して他に移る場合は、情報提供を行い住み替えがスムーズに行えるようにしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご本人の思いを否定せず声のトーン、話す場所に留意して入居者様の時代背景も理解した上で混乱のないよう努めている。記録の際は、ありのままを記載し、他者が登場する場合は、実名を記載しない。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>更衣、入浴、外出、買い物等自己選択できるよう、一人ひとりの状態にあわせた関わりを実践している。迷いがあるときは職員がアドバイスしている。</p>	○	自ら訴えない方に対しての希望の引き出し方を工夫していく。
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の生活ペースを尊重し、役割を持っていただきながら自由に生活していただいている。</p>	○	自ら訴えない方に対しての希望の引き出し方を工夫していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装はご本人で選ぶ方もいるが、パートナーと一緒に選ぶこともあり、その日の天気に合わせて調整している。汚れ等に対しては他入居者に気づかれぬようさりげなく声をかけ対応している。理・美容は、髪がのびたら声をかけ、同行するほか、理・美容への外出が難しい方は訪問美容サービスを利用している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューは全員同じものを提供しているが、違うものを食べたい希望があるときは、すぐ対応している(ご飯→麺・パン)。食事の下準備や盛り付けの声をかけ、負担とならぬようパートナーと共に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコに関しては受動喫煙のこともあり、喫煙場所を決めて入居者様にも了承を得ている。飲み物やおやつに関しては、ご本人の好むものを提供するよう心がけている。糖尿病で糖分・水分に規制がある方へも、カロリーオフの砂糖・菓子を提供したり、小さい器で満足感を得られるよう工夫している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	リハビリパンツやパッドを使用している方がいるが、その方でも排泄はトイレで行っている。入居者様の表情、身体的サインでトイレへさりげなく声かけを行っている。排泄パターンを把握できるようチェック表を活用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	どの時間帯に入りたいか、どのくらいの周期で入りたいのかを考慮し、入居者様に声かけて希望に応じ入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない訴えがあった時は、その時間を一緒に過ごさせていたいただいている他ホットミルクを提供し、安眠を促している。不安などの訴えや身体的負担が見られたら休憩の声かけをしている。又、日中の活動量にも配慮し、安眠につなげるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活の中で個々の趣味、嗜好を尊重しながら、共に楽しみながら役割を演出させていただいている。不満、不安がある入居者様には気分転換として周辺散歩やドライブへのお誘いをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様一人ひとりの希望や力量に応じ、支払い可能な方にはご自身でその場面において支払いをしていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物やドライブ、散歩の希望がある入居者様には都度対応させていただいている。そのほか、職員から買い物や散歩の声かけをさせていただいている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	定期的に外出支援として計画をたてており、その際ご家族にもお知らせし、家族との交流が図れるよう支援させていただいている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人自ら電話を使用されている。又、希望時にはかけるための支援を行っている。その場所には椅子を用意しており、気兼ねなく電話できるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪の自由については説明している。来訪した際は、飲み物をお持ちする以外の訪室を避け、ゆっくり過ごしていただけるよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どんな条件下であっても入居者様への身体拘束はしていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中は閉めていない。夜間は防犯上閉めることを入居時に説明している。外出も自由なので鍵を閉めることはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	必ずパートナー1名はリビングに待機し、常に見守りを行い、利用者の所在確認、安全への配慮を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬は入居者様の目のいかない場所へ保管。洗剤、刃物は利用者にとって安全な場所へ保管し事故防止に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員一人ひとりが入居者様の特性を知り、環境整備に取り組み、事故防止を心がけている。火災に関しても消防、警察との連携をとり、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	入社時に救急法について学んでおり、緊急・救急・防災マニュアルを整備しているが、急変の際すべての職員が対応できるとはいえない。	○	個人での勉強するほか、定期的に勉強会や訓練を行っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施し、地域の方々に実施内容を回覧板等で配布し、協力を求めているが十分な協力は得られていない。	○	地域運営推進会議で取り上げ、相互協力を図っていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクが発生した、もしくは発生しそうな場合、リスクが軽減できるよう皆で話し合い、抑圧のないよう対応策を講じ、ご家族に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	生活チェック表を活用し、その方の平常値を把握しており、状態の変化には看護師とも相談し、ユニット内や申し送り時に問題提起し、速やかに対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は個別支援しており、症状変化がないか観察、記録されている。薬の目的、副作用、用法、用量が記載されているものを別ファイルにて保管し、すぐに確認が出来るようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	ヤクルトや牛乳、乳製品、果物を食卓に出し、水分補給の声かけもしている。じゃがいもやかぼちゃなどの食物繊維も食事に取り入れている。	○	定期的に身体を動かす支援(体操、アクティビティ)が必要である。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者の状態に応じて一部介助もしくは全介助している。声かけをしても断られる場合があるが、時間をおいて声かけをし、介助している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活チェック表に網羅された内容であり、入居者様一人ひとりに応じて適切な水分・食事を提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者・職員とも毎年実施している。職員・来訪者のうがい、手洗いは徹底されており感染予防マニュアルに沿って対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品は極力冷蔵庫保存とし、まな板や水入れポットは夜間に漂白し食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に苗花を植えたり、畑で野菜の栽培をして家庭的な雰囲気作りをしている。畑は入居者様のご家族が耕したり花を植えに来訪されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にご協力を得て懐かしさを感じることができる物品を寄贈していただき、装飾している。日光・音への配慮も行っている。季節の花で玄関やリビングを飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングだけでなく、ホールにも机と椅子を設置しているほか、他目的室で電話をしたりなど自由に過ごせる居場所を確保している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた家具等を持ってきていただけるようお伝えしており、少しでも今までと変わらない生活をしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	暖房の温度調節はこまめに行い、換気も行っている。温度計、湿度計のほか空気清浄器も設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりは高齢者の平均身長に合わせて取り付け、浴槽内に滑り止めを設置。浴室やトイレの手すりはどちらの麻痺にも使えるようになっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、浴室、人によっては自室の場所がわかるように工夫している。(トイレは「便所」と表示、浴室には「ゆ」の暖簾、自室扉に表札または印)		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前、ベランダの前方には畑があり、花や菜園を楽しんでいただいたり、日課として花摘み、雑草取りをされている方がいる。ベランダでの洗濯物干し、日光浴、バーベキュー等多岐に渡り活用されている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ●③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	③
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ●③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ●②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ●②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ●②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ●②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

一人ひとりの状況に応じて、言葉や行動による抑制は一切せず、人生の大先輩として尊敬する気持ちを忘れず、その一瞬(喜怒哀楽)に共に入り、共感している。